会　議　録

1　会議名

令和3年度第2回上越市食育推進会議

2　議事（公開・非公開の別）

(1) 第4次上越市食育推進計画（案）について（公開）

3　開催日時

令和3年12月13日（月）午後2時から4時

4　開催場所

上越文化会館 大会議室

5　傍聴人の数

0名

6　出席者氏名（敬称略、傍聴人を除く。）

・委　員：野口孝則、柳沢幸也、宮﨑容子、難波久美子、岩井文弘、栗間良子、
佐々木亜子、塚田圭一、桝谷友美、松井和代、北川渚、佐藤朋美（空委員代理）

・事務局：農政課：佐藤課長、高橋副課長、北山係長、中里主事、宮澤主事
健康づくり推進課：川合上席保健師長、保育課：渡邉副課長
上越ものづくり振興センター：勝山副所長、農村振興課：廣田副課長
教育総務課：佐藤副課長、学校教育課：小林副課長、社会教育課：福山副課長

7　発言の内容

（1）開会

【事務局：北山係長】

・上越市食育推進会議規則第2条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認し、会議の成立を報告。

・令和3年9月27日付けの人事異動に伴い、1人の委員が交代となったため紹介する。
塚田圭一委員（株式会社 セブン-イレブン・ジャパン 総合渉外部 新潟・北陸ゾーン行政推進担当）

・任期は、前任の残任期間である令和3年9月27日から令和4年7月25日までとなる。

（２）会長挨拶

【野口会長】

・本日の会議は、大きな課題である第４次上越市食育推進計画（案）についての議事である。これに関し、今後の市の発展及び食育推進のため、委員１人１回以上は、是非遠慮なくご意見やご発言をいただきたい。

【事務局：北山係長】

・本日の会議録は、後日、市のホームページで公開されるので、あらかじめご承知おきいただきたい。

・「次第３　議事」に入る。進行は、上越市食育推進会議規則第２条第１項に「会長が議長となる」とあるため、野口会長に議長を務めていただきたい。

（３）議事

① 第４次上越市食育推進計画（案）について

【野口会長】

・しばらくの間、議長を務めさせていただく。初めに、「第 4 次上越市食育推進計画（案）」について、事務局から説明願いたい。

【事務局：高橋副課長】

・資料№1 から№4 及び参考資料№1 から№3 に基づき説明（説明省略）

【野口会長】

・今ほど事務局から説明があったが、まず初めに、第３次計画の成果と課題について、第４次計画（案）は１ページから 16 ページの第１章・第２章になるが、委員の皆様からご意見、ご質問等はあるか。

＜委員全員意見・質問等なし＞

【野口会長】

・次に、第４次計画（案）の 17 ページから 20 ページの第３章、「第４次計画の基本的な方向」について、ご意見、ご質問等はあるか。

【岩井委員】

・第３次計画では、食育の「『実践』の環を広げよう」という目的でやってきて、第４次計画でも、「実践」を主な目的として取り組むということでよいか。第１次計画から第３次計画まで実践を伴ってきたと思うが、今改めて第４次で「実践」ということ

ではないと思うがいかがか。

【事務局：佐藤課長】

・第４次計画（案）１ページの下表にあるとおり、第１次計画では、「食育」について周知・啓発を図り、第２次計画では、その「周知」から「実践」へということで、実際に取り組んでいこうということ、第３次計画では、その「実践」の環を広げるということで、徐々にその運動を大きくしてきたところである。第４次計画については、広がってきた「実践」を定着させるということに重きを置いて、「食育の『実践』の定着に向けた取組の強化」をキーワードとした。

【岩井委員】

・その「実践」の定着に重点を置くとなると、コロナ禍においては、人が集まる又は人を集めるということがある程度制約されるかと思うが、その際は、感染症対策に努めていただきたい。食育は、実際に人と交わりながら食べることが非常に大切だと思うので、学校や保育園、公民館等で、食育フォーラムなどの催し物をできるだけたくさん開いて食育を推進していただきたい。

【野口会長】

・続いて、第４次計画（案）の21ページから34ページの第４章、「食育の推進に関する施策」について、基本方針ごとにご意見等をお伺いしたい。

・まず、21ページから28ページの「基本方針１　生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりの推進」について、ご意見・ご質問はあるか。

・資料№1を見ると、「在宅時間を活用した食育の推進」が新規で入ってきた。これまでやってきたことはやらなくていいということではなく、先ほど事務局から説明いただいたように、ほぼ全ての項目について、第１次計画から第３次計画の経過を踏まえて更に充実を図っていくという文言になっているがどうか。

＜委員全員意見・質問等なし＞

・次に、29ページから30ページの「基本方針２　地域や家庭で受け継がれてきた食文化の継承」について、食育市民アンケート調査によると、この基本方針に関わるところは、想像以上に良好な結果が得られていると感じた。

・郷土料理を学校給食に取り入れていることや、ふるさと献立を実施する際に、学校の先生方がそれに合わせてメッセージをお便りの形で配布されているということを聞いているので、郷土料理に対する意識を高める取組は、市内の小中学校の給食の中で

も、実践的な取組が行われており、まさにそのとおりだと思う。

・この基本方針２に関して、ご意見・ご質問等はあるか。

【栗間委員】

・学校で調理員をしている娘から、現在、小中学校で郷土料理を出していることを聞き、いい傾向だと感じている。

・今、若い母親世代が郷土料理を作ることがなかなかない。今の小中学校の子どもたちが郷土料理を食べる機会が少ない中、郷土料理が学校で出されることは、大人になった際に小さい頃に食べたことを思い出すきっかけにもなり、大変いいことだと思う。

【野口会長】

・おおむね良好に推移していると思うので、今後も地域や家庭の中で、食文化を継承していくべきである。実際に食べながらでないと伝わらない部分もあると思うので、誰かが作ってくれて、それを誰かが食べていくというこの伝承が今後も広がっていくといい。

・例えば、月に１回ふるさと献立の日があるが、月２・３回に増やすとか、せっかく現在のいい取組なので、栄養教諭の先生方のちょっとしたテクニックで、今後、更に積極的に取り組んでいただきたい。

・また、「上越の」という言い方のみならず、「中郷の」とか「名立の」というように、市の中でもどの地域の郷土料理であるか分かるようにして郷土料理が広がっていくと、より郷土愛を育みながら学びにつなげていけると思う。しかし、もう既に十分取り組まれているので、今後も現在の取組を守りながら進めていただきたい。

・次に、30ページから34ページの「基本方針３　食育推進に向けた連携促進と情報共有できる環境づくりの推進」について、現在、市内の食育関係団体が様々な活動を行っているが、活動が終わった後に報道で知り、「見に行きたかったな」「面白そうだったな」と思う。終わってからの情報は届くが、行われる前の情報提供が充実していたら、もっと参加者が増えると思う。それがデジタル化によって解決するかは分からないが、デジタル化はリアルタイムで離れた地域の人たちと同時にコンタクトが取れたり、取り組んだことを動画や写真、文字、いずれかの形で市のホームページやSNSで発信できたりする。特にアーカイブがあると、とてもいい。

・農業をやっている方々の生の声が、こうしたところに蓄積されていくと、小中高生の学びの教材としても使いやすくなると思う。これを誰が担当して、何をどう作るのか

を決めるのは難しいかもしれないが、このデジタル化と情報共有の話は、特にこのコロナ禍の時代だからこそ、今後も積極的に広げていきたい。ご意見・ご質問等はあるか。

【桝谷委員】

・基本方針１に戻る。新潟県栄養士会上越支部として、生涯にわたり食を通じた心身の健康づくりを推進するという点で、①各ライフステージに応じた切れ目のない食育の推進、②生活リズムの形成に向けた働き掛けとあるが、施設入所等をされている方は、地域の一般の方たちとは少し違った生活を送っている。このことについて、地域の一員として一緒に考えていかなければならないということを、今回、前回と、会議に参加させていただいて感じた。入所施設には高齢の方や児童がおり、高齢の方だと、生活習慣病の重症化予防という部分で取り組んでいるが、それを今まで食育として捉えていなかったので、実はそれが食育になっているということに気付いた。

・食事の中に郷土食を取り入れる回数を増やすことも意識して、これから取り組んでいきたい。

【野口会長】

・栄養士会の一会員である私としても、桝谷委員の意見に大賛成である。食育は、地域の健康な人たちだけでなく、生活習慣病やその重症化予防、また、リハビリも含めて、多くの様々な状況におられる全ての方々を健康に近づけるために、食事や食生活・食文化をサポートしている。栄養士会を挙げて、学校・医療・介護・福祉施設などの全ての施設で働いておられる栄養士の方々が、それぞれの施設の方に対して専門的知識を発揮できるよう、桝谷委員からも是非伝えていただきたい。

・基本方針３に戻るが、ご意見等はあるか。

【松井委員】

・情報発信という部分では、本当に遅れているし、関係者だけで盛り上がっている部分があると感じている。正しい情報を欲しいと思っている市民はたくさんいるので、情報発信したいが、発信場所が分からない。このことについて、行政が行うのは駄目だと思うが、これを担う団体が出てくればいいと思う。その団体を選定してもらえれば、書き込みをする人たちが出てくるので、管理をどうするかという部分はあるが、こうしたことをしていかない限り広めるのは少し難しいと思う。

・情報発信のやり方をどのようにしていくか、詳しく教えていただきたい。

【事務局：佐藤課長】

・基本的には市で取りまとめて、それをマスコミや報道機関、あるいはホームページに掲載することを考えている。

・ただ、中には営利目的のものも出てくると思う。その場合、市のホームページに掲載することは難しいが、市役所の中に記者クラブがあるので、報道機関への情報提供は、問合せ先を各団体として、そこに問合せていただくことで、お伝えすることは可能であると思う。

【松井委員】

・そうなると、一般市民からの情報は市に送れないのか。

【事務局：佐藤課長】

・市に送っていただいて構わない。私どもを経由して、マスコミの方に情報提供し、新聞等で扱っていただければいいと思う。

・内容にもよるが、基本的には、市でまとめたものを記者クラブを通して発信したいと思っている。しかし、営利に関する部分は、直接マスコミを通じて情報発信する形になると思う。

【松井委員】

・記者クラブはよく使わせていただいている。事前に報道してもらったり、事後にも掲載していただいたりしているが、市民が「明日暇だけど何かないかな」というときに、気軽に探せる情報バンクのような場があれば随分違うと思う。

・事後に報道され、行きたかったと思うことがよくあるので、事前にメールで知らせていただくなど、事前周知の部分を今後充実していただきたい。情報提供に関する部所を私だけでなく、一般市民にも教えていただきたい。

【佐藤課長】

・基本的には、市が横串を通すという形で、情報を農政課に提供していただき、全て集約していきたいと思っている。農政課にお問い合わせいただいた際に、お答えできる情報は整えていきたいと思うが、そのことをまず、多くの方に周知し、こちらに情報を寄せてもらうところからの取組になるので、広報や様々な機会を通じて、市が情報を集め、問合せに答えられる体制を作りたいと思っている。

【野口会長】

・これまで、この会議の中でも何度か懸念材料として上がってきた、情報発信・情報の受取体制の充実について、今回第4次計画の中で市も前向きに取り組み、動きを広げていくということなので、私たちも期待したい。

・それでは引き続き、34ページから38ページの「基本方針4　上越の農林漁業への理解の促進」について伺いたい。

・地産地消の推進ということで、直売所を始めとするところからの情報発信や、コロナ禍で制約はあるが、直売所やスーパー、コンビニなどを通じて、生産者から消費者への情報提供が丁寧に行われていく市になることを願い、特に安全・安心に関する情報を含めて、正確な情報を生産者や加工業者の方々から発信していただきたい。

・情報の受け取り側である消費者には、様々な情報を欲しい方が本当にたくさんいる。農業者の中には、パソコンをあまり扱わない方もいると思うので、生産者の方々が情報を発信するために、発信者側へのサポートをしていただきたい。

・農林漁業への理解の促進のための取組について、ご意見・ご質問はあるか。

【松井委員】

・基本方針4の（1）②地産地消の推進で、地産地消推進の店を引き続き認定するとともに、新たに「プレミアム認定店」という新しい言葉があるが、これについて、いつから、そして現在認定している地産地消推進の店との違いを教えていただきたい。

【事務局：佐藤課長】

・「（仮称）プレミアム認定店」について、地産地消推進会議委員の皆様にお諮りしている取組がある。

・現在、小売店や飲食店等で上越市産食材を使っている又は販売しているお店を地産地消推進の店として認定している。さらに今後、飲食店、小売店ともに、上越市産の食材について、お客様の質問に答えることができる、「（仮称）地産地消推進マイスター」がいることを認定基準に組み込もうと考えている。例えば、郷土料理の作り方や食材の料理の仕方、食べ頃などをお客様に教えることを想定している。また、他の認定基準（案）としては、雪室の食材を使っている又は販売している、化学肥料・化学合成農薬の使用を控えた地場産野菜を使ったメニューを提供している又は販売している、飲食店等であれば、上越市産の重点品目野菜であるブロッコリーやキャベツ、トマト、アスパラガス等を使ったメニューを年60日以上提供している、などといっ

たものを考えている。こうした認定基準を満たしているお店をプレミアム認定店として、今年度認定しようと考えている。

・スケジュールとしては、3月までに認定し、それ以降は随時お店を募集していくことを考えている。

【野口会長】

・今おっしゃった条件は、全て満たさなくてはならないのか。

【事務局：佐藤課長】

・必須項目と選択項目があり、選択項目は、その項目から2つ以上該当していればいいということで考えている。今後、地産地消推進の店に照会をかけ、プレミアム認定店に手を挙げていただき、来年3月までに、まず第一弾としてお店を認定し、ＰＲしていきたいと考えている。

【野口会長】

・どこが中心となってやるのか。

【事務局：佐藤課長】

・農政課が事務局であり、認定審査は、地産地消推進会議委員の皆様にお諮りする。

【野口会長】

・地産地消推進会議委員の皆様がマイスターを認定していくということか。

【事務局：佐藤課長】

・マイスターについては、自己申告制にしたいと考えている。マイスターは必須項目にしているので、お客様からの質問に答えられなければならないということに加え、マイスターを通じて上越市産の食材をＰＲしていくという任務も担っていただきたいと考えている。

【野口会長】

・私からのお願いとして、マイスター制度を丁寧に確立していただきたい。ちびっこマイスターやジュニアマイスター、ハイスクールマイスター、シニアマイスターというように、マイスターはたくさんいていいと思う。15 年ほど前に流行(はや)った地元検定と一緒だが、上越食べ物検定の1級、2級というようなものである。以前、明石にいた時にはタコ検定というものがあり、毎年全国から数万人が検定を受けに来た。小中高等学校における地域学習の一環として、マイスターになれば、子どもたちも地元の食べ物についてＰＲできる。せっかくマイスター制度をやるのに、ビジネスのプレミア

ム認定店のところだけで終わらせてしまうのは、大変もったいないと思う。

【栗間委員】

・先日、保倉小学校の児童が学校で育てた米を1㎏単位で売っており、子どもたちにとって、農業というものを学ばせるとてもいい機会であると思った。

・少し理解できない部分がある。多くの小学校で米の販売をやっているが、作ったものを販売につなげることを学ばせる経験なのか。

【学校教育課：小林副課長】

・小学校の総合学習や生活科では、色々な野菜や米を作っている。米はどの学校でも5年生の児童が作っているが、作った後は、ただ持ち帰るのではなく、その米を使って料理をし、その際、野菜等も一緒に使う。また、自分たちが頑張って作った米を地域の方に提供することで、販売の学習もしている。

【岩井委員】

・第4次計画（案）28ページに共食が大切であるとの記載がある。確かに子どもが両親と共食することは心身の面で非常に大切なことであるが、現在は家族構成が随分変わり、高齢の夫婦と若い夫婦の家族では、異なることがたくさんある。高齢の夫婦だけで暮らしている場合、いずれ1人になってしまう高齢者が多数見受けられる。私が住んでいる町内でも、特にアパートでの高齢者の一人暮らしがあり、スーパーで食材を買ってきて料理し、テレビを見ながら 1 人で食べている状態の方が増えていると思う。

・そこで、高齢者の孤食を避ける取組を是非進めていただきたい。以前、そのような状態にある高齢者に対する市の支援策に訪問介護があったと思うが、今後、食事の面で何か場を設けていただきたい。千葉県だったと思うが、子ども食堂のような高齢者のための食堂を設けて、月に1・2回共食の場を設けている事例があった。市でもそういう取組をやっていただきたい。

【野口会長】

・例えば、町内会レベルで具体的に行っていくことも可能であると思う。町内であれば、距離が短い分バスに乗らなくてよく、介護予防の観点から、栄養士の訪問指導を含め、国の事業としても動き出しているところである。ただ、食事に関しては、誰かの家に集まるのは、もう個人単位でやるしかないところであり、改めて地域の方々に呼びかけて、みんなで何かしようというと、具体的にはお花見やお盆、地域の祭りや行事に

なると思う。それらが最近希薄になっていることも含めて、地域の絆（きずな）づくりというのは、確実にこれからの高齢社会の大きな課題の一つであり、食育のみならず、大きな課題だと思う。

・市が将来的にこのコミュニティをどう運営していくかということでもあり、また、地域交通や地域の人々の流れなど、月に1回の食事会の話だけでは収まらないテーマだと思う。食育の中でもとても大切なテーマであるが、月に1回共食をするということをゴールとするのではなく、更に直近5年後、10年後の未来を考えたときに、食育計画の5か年計画、その次の5か年計画をやっている間に、かなり様変わりした人口構成になり、2025年問題に向けて全国的に取り組むべき課題である。

・高齢者に向けた生きがいづくり、日常生活全般の中で、食生活を含めた在り方づくりというのは、市のどこが担当になるのか。

【事務局：佐藤課長】

・高齢者に向けた施策となると、高齢者支援課が担当である。介護予防という観点では、市でもいくつか取組をしており、健康づくり推進課から少し紹介してもらう。

・共食については、前回の食育市民アンケートと異なり、コロナ禍で会食を避けていた時期にとったアンケートのため、数値が落ちている。密を避けながら徐々に会食することができるようになってきたので、少しずつまた広がっていくものと考えている。

【健康づくり推進課：川合上席保健師長】

・健康づくり推進課では、町内会が高齢者の方を対象に行っている昼食会や昼食を含めたサロン的な活動において、生活習慣病の重症化予防・介護予防の観点から講話で、生きがいづくりや健康づくりを支援させていただいている。

【塚田委員】

・資料№3の基本方針4（3）②食品ロス削減に向けた取組の啓発について、第4次計画（案）38 ページに記載のとおり、私どものコンビニや小売業は、どうしても食品ロスが発生してしまうが、近年、食品ロスに対する意識が高まってきており、食品ロス削減に向けた取組をしている。

・お客様の視点として、新しいものと古いものがあったら、自然と新しいものから取られる傾向がある。コンビニの場合、買ってすぐに食べるという意見がほとんどであるが、お店側からお客様に「手前から取ってください」とはなかなか言いづらいところがあった。そこで、昨年、この第4次計画（案）にある「てまえどり」という政策の

一環で、環境省や農林水産省、消費者庁とともにポスターを作成し、各コンビニに配置している。

・他県や長岡市からもポスターやポップ類を作成していただき、ともに食品ロス削減について取り組んでいることをＰＲしている。

【野口会長】

・セブンーイレブン・ジャパンとしては、毎年食品ロスをどのくらい削減しているのか。

【塚田委員】

・データはあるが、会社としては公表するのが難しいため、日本全国で何百万トンの食品ロスが出ているという話をさせていただいている。

【野口会長】

・セブンーイレブン・ジャパンの各地区ブロックごと、または塚田委員の担当範囲や新潟県単位の重量は把握できるのか。

【塚田委員】

・把握はできるが、それを公表するとなると、会社として取り組んでいる部分なので難しい。

【野口会長】

・すぐにこの場では難しいかもしれないが、他の地区の取組で、このくらい削減できたなどといったもので、もし共有できるものがあったら、今後の課題として示していただきたい。

・先日も、埼玉県・愛知県・兵庫県の 3 つの学校でオンラインゲストとして出演したが、4 年生から 6 年生に食品ロスをテーマに授業することが本当に増えてきており、やはりデータが出てくると、子どもたちも更に関心を持つと思う。具体的にどうすれば、その数字を改善できるのかということを子どもたちだけでなく、大人の私たちも一人一人が自分のこととして考えていくことにつながる。コンビニにおいて、私たちの行動はどうあるべきか、セブンーイレブン・ジャパンが先生役となって、私たちに教えていただくこともできると思うので、公表できそうなものがあれば、是非お願いしたい。

【農林水産部長代理：佐藤参事】

・基本方針 4 の農家に関する情報の発信について、米農家も園芸の生産農家も、皆さんご自身の facebook や Instagram を活用されて、栽培の過程や出来上がった品物の情

報を頻繁に発信している。飲食店の方も、ご自身のお店の情報を発信する中で、農家の方とつながりができ、そこからお店に直接農家の産物が供給されるということが頻繁になってきている。そういった意味でも、SNS が進むことで、場所の格差がなくなり、若い農家の方や山間地の農家の方も情報発信ができて、いい状態だと思っている。

・現在、市でもホームページの充実を進めている中で、農家の方の現場の声をホームページに載せようと、現場で取材をしているので、近いうちに掲載したものを見ていただきたい。

【野口会長】

・農政課では、食育担当として facebook 等の SNS のアカウントはあるのか。

【事務局：佐藤課長】

・来年度に向けて、現在アカウントを取る準備を進めている。今年度中、或いは来年度早々には取る方向で作業を進めている。

【野口会長】

・今ご紹介いただいた Instagram や facebook で、農家の方やお店の方のアカウントを、是非、市のアカウントで全てフォローしていただきたい。市のアカウントを見れば、そこでフォローされている人を見てつながることができる。

・それでは最後に、まだ本日ご発言いただけていない委員の方に、どの内容でも構わないので、一言ずつコメントをいただきたい。

【柳沢委員】

・第 3 次計画の総括を踏まえ、第 4 次計画（案）を作成していただき、一通りお話を伺ったが、大変素晴らしい。

・以前、この場でもお話をさせていただいた「食育」という言葉をキーワードに様々な施策を計画いただいているところだが、更にその施策の上位計画の数値の変化に非常に関心がある。基本方針 4 であれば、市の農業施策として、新規就農者が増えた、あるいは中山間地の持続的な農業がどの程度維持されているかといった評価指標になっているアンケートの平均的な数値が見えない。基本方針 1 であれば、様々な福祉施策が関わってくると思うが、アンケートの数値だけでなく、定住人口の増加や平均寿命・健康寿命の延びといった上位計画での数値が変化したため、この部分を重点化していくという方向性が見えるとより分かりやすい気がする。

・もう 1 点、今回高校 2 年生に食育アンケートをやっていただき、その割合で数値化さ

れたものが指標になっていて、例えば、朝食をとらない人が 5%というのは、教室の中で 2 人ほどになるわけであるが、この生徒に「朝食を食べていますか」という問いが素直に受け入れられたのか疑問である。掘り下げると、平均値で捉えられない色々な事情があり、その辺りを踏まえた評価指標も必要ではないか。

・「食育の『実践』の定着に向けた取組の評価」というキーワードで、様々な指標を横につないでいくと、市の上位計画につながるという意味では、大変素晴らしい計画を立案されていると思った。

【宮﨑委員】

・子どもたちの普段の様子を見ていると、食に関する学習は皆大好きである。小学 1 年生が自分たちが作ったサツマイモを「作ったから食べてください」と、私のところに持ってきて、「とてもおいしかったよ」と言うと、子どもたちは本当にいい顔をする。食は、子どもたちにとって本当に大事で大好きなものであると、いつも感じている。

・資料№2 の下部に「栽培体験に留まらず、体験から食の大切さの学びにつなげるなど、内容の更なる充実が求められている」とあるが、これも常に感じている。農業の課題について考えると、「てまえどり」というキーワード一つをとってみても、子どもたちから様々な考えが出てきて、それが家庭にも広がっていくと感じている。今日は、本当に色々学びがあった。

【難波委員】

・公立保育園では、月 1 回の食育集会や、どの園でも、子どもたちの育てたい野菜の苗を買ってきて、ご年配の方に来ていただいて、野菜を作る取組等をしている。

・しかし、園児の中には、年齢に合った生活習慣が確立していない子やマナー等課題がある子がいる。コロナ禍ではあるが、保育園ができることとして、今後も保護者と子どもたちに向けて食の大切さを伝え続けていきたい。

【佐々木委員】

・ぬか釜炊飯は、少量のもみ殻を燃料に炊飯でき、とても美味しくご飯が炊けるとともに、燃え殻を土に蒔(ま)くと土壌改良剤になるエコ炊飯である。これを児童が体験することで、米本来の美味しさや資源の無駄がないことを楽しく学べる教材になると思う。

・小学校から女性部に親子笹ずしづくりの依頼があって手伝いに行った際、朝から準備、午後に活動という長い一日であったが、活動終了後、女性部の講師や部員に声を掛けると「疲れも忘れ、やりがいがあって楽しかった。またやりたい。」と感想をもらっ

た。講師依頼に対し、進んで手を挙げる人は少ないが、体験した児童の喜びを感じると、やらされた感ではなく、依頼に協力できてよかったと感じてもらえると知った。

・女性部の活動として、農業に関する映画「アンダンテ ～稲の旋律～」を見た。その内容として、農業の多面性や食、環境のほか、人間育成といった人間本来のかけがえのないものにも農を通して偉大な効果があることが描かれており、農業の尊さを再認識させられた。映画を観た女性部の皆さんからは、感動したとともに子どもにも観てもらいたいとの声があった。次世代、また地域に農業の PR をしていく課題がある中、意識統一されるような映画であった。

【北川委員】

・私は出身が大阪で、大学院で上越に来て、本当に上越市の食べ物は美味しくて、いつも感動する。今回のこの第 4 次計画（案）を聞いて、市の素敵なものを活用されていることを知り、ただただ感心、感動した。

・その中で、私が気になったところは、情報共有やデジタル化について、例えば facebook を立ち上げるのであれば、その認知度に関して今後アンケートをとって数値化し、調べられるのかどうか少し気になった。何かをやっても結局知られないと、非常に悲しいと思う。

・市民の方にも市の素敵なところをもっと知っていただけたらと感じた。今後、私は上越市を離れることになるが、楽しみにしていきたい。

【野口会長】

・一通り皆さんにご発言いただいたが、今後また気付いたことがあれば、事務局に連絡していただきたい。本日の会議における議論は以上とする。

・本日の意見等を踏まえ、計画（案）を修正し、議会への報告、さらにパブリックコメントにかけるということでよいか。

＜委員全員異議なし＞

・委員の皆様から承認をいただいたので、事務局で議会等の対応をお願いしたい。

・本日予定していた議題は以上となる。事務局へ進行をお返しする。

（５）その他

【事務局：北山係長】

・委員の皆様から何か情報提供はあるか。

【岩井委員】

・今年、農協で売り物にならない野菜を使った料理を提供した催し物があったと思うが、今後もあるか。

【佐々木委員】

・あると思う。

【事務局：北山係長】

・事務局から情報提供をさせていただきたい。来年1月23日（日）に「農業フェスティバル」というイベントを文化会館で行う予定である。

・この農業フェスティバルの一部として、「食育実践セミナー」というイベントを同時に開催する。午前10時30分から「食育講演会」として、Jリーグアルビレックス新潟の栄養アドバイザーを務める長谷川直子氏を講師としてお呼びする。幼い頃からスポーツを始め、中学生や高校生になってもスポーツをしている子がたくさんいる。米を食べて強くなる、また、スポーツをしていない子も、強い体を作るという内容で講演会を行う。

・案内チラシを作成し、広く周知する。委員の皆様にも送付するので、是非ご参加いただくとともに、周知にご協力願いたい。

（6）閉会

【事務局：北山係長】

・以上で、令和3年度第2回上越市食育推進会議を終了する。次回の会議は、2月又は3月を予定しており、パブリックコメントを実施した結果を踏まえて、計画をお示ししたいと考えている。日程等は決まり次第ご連絡する。

8　問合せ先

農林水産部農政課　　TEL：025-520-5747

E-mail:nousei@city.joetsu.lg.jp

9　その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。